

No.140
2002.
12.27

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

白山文化博物館の役割と課題

白山文化博物館 白石 博男



さまざまな博物館が存在する現在、それぞれの博物館が、自らの果たすべき役割を再認識することが大切であると思う。

白山文化博物館の役割の第一は、白山

信仰美濃馬場であった白山中宮長滝寺の歴史、なかでも貴重な文化財の紹介展示である。養老元年(717)白山信仰の開祖泰澄の開創と伝える白山中宮長滝寺は、加賀・越前と並ぶ白山信仰三馬場の一つとして発展した。

三馬場はそれぞれ特徴を持っているが、美濃馬場の特徴は、文化財が多く残っていることである。他の二馬場が、一向一揆などにより文化財が多く残らなかったのに対して、美濃馬場の場合は、幸い多くが残った。

鎌倉・室町時代の全盛期を中心に、東海各地の信者たちにより寄進された宝物は、鎌倉・明治の二度の大火や明治初年の神仏分離など度重なる災厄を乗り越えて、貴重な文化財として、長滝白山神社・長滝寺・阿名院の三社寺に数多く残っている。白鳥町の国県重要文化財の件数が、県内で岐阜・高山両市に次いで三番目に多いのは、白山信仰文化財が長滝・石徹白に残るからなのである。

「白山文化の里」を標榜する白鳥町が、平成九年白山文化博物館を開館した基本的目的は、それまで拝観が難しかったこれらの文化財を、順次公開するためであった。文化財は、出来る限り公開活用されるべきである。言うまでもなく、国県町の重要文化財は、所蔵者だけのものでなく、広く国民・県民・町民の貴重

な財産なのである。こうした観点からの白鳥町は、近年国県町の補助を受け、多数の白山文化財の修復も行ってきた。

昨年からは、さすがに借用展示できない長滝寺本尊・木造釈迦三尊像と四天王像(共に国重文)を拝観できるよう、長滝寺と博物館が協力して、夏季における開扉を実現している。さらに、町の「白山文化の里整備」の第三期事業として、博物館も関与して、長滝一帯の史跡ゾーンの整備も始まっている。

ところで、白山文化博物館の展示には三本の柱があり、白山文化の紹介と並んで、あと二つは、郡上藩宝暦騒動(郡上一揆)とふるさと生活展示である。

映画「郡上一揆」に描かれた郡上藩宝暦騒動についての展示室があるのは今のところこの博物館だけであり、この一揆で作成されて現存するただ二つの傘連判状も借用展示している。映画の全国上映以来、郡上一揆を見学テーマとする来館者も多くなった。ふるさと生活展示室も年輩者等をはじめ根強い人気があり、また、小学生の社会見学の際に、昨年からは千歯抜きによる脱穀体験学習を試みて好評である。この三本の柱のうちどれを目的にするかによって、多様な入館者があり、多様性ということもこの博物館の特徴である。

大きな博物館と違って、常勤1人、嘱託1人、受付女性2人という人的条件の下でのささやかな博物館のもつ限界もあり、あまり背伸びせず、長い目で見ていきたい。

平成の町村合併への対応の問題もある。こうした時こそ、それぞれの博物館が、自らの役割を認識し、個性的存在としての博物館を目指したいものである。

第27回東海三県博物館協会交流研修会報告

日 時：平成14年10月24日（木）～25日（金）

会 場：愛知県名古屋市 産業技術記念館、ノリタケの森クラフトセンター

今年度は「参加体験型展示・事業の現状と展望」をテーマに、3県からの事例発表があり、各館ブース見学・情報交換、そして参加体験型展示の充実した2館の見学を行った。参加者は岐阜県14名、愛知県34名、三重県20名であった。

第1日（10月24日（木））

(1) 研修：事例発表

1 愛知県「体験型博物館について～博物館明治村の場合」

(財) 博物館明治村館長 飯田喜四郎氏

1965年に開館された明治村は、多数の明治期建築物を有する野外型博物館である。当初は建物の外観を見ていただくものが多かったが、最近は外観だけではなく、内装・調度品を充実し、居住していたころを復元し、イスに座ってくつろいでもらえる状況を整えている。この場合、説明案内と室内管理を兼ねてボランティアの方々に活躍いただいている。体験型イベントも増やしており、より親しまれる体験型野外博物館として努力を重ねている。

2 岐阜県「平成13年度夏季特別展の参加型展示について」

岐阜県博物館学芸員 説田健一氏

鳥の絶滅危惧種と明治から昭和初期に収集された鳥類の寄贈標本の特別展であったが、主な展示が剥製なので、剥製の触察コーナー、鳥類とほ乳類の骨の比較、卵の大きさ重さ比べ、羽毛の顕微鏡観察、鳥の鳴き声調べ、などの体験型展示の充実を図った。また特別展会場のビンゴゲームなどを設置し、子どもにも親しみやすい展示作りを行った。

このような工夫は、視覚以外の感覚から展示を捉えることができ、受動的な見学から開放されるが、逆に展示の趣旨がぼける面もあり、両者のバランスが今後の検討課題である。

3 三重県「亀山市歴史博物館における参加体験型展示・事業の現状と展望」

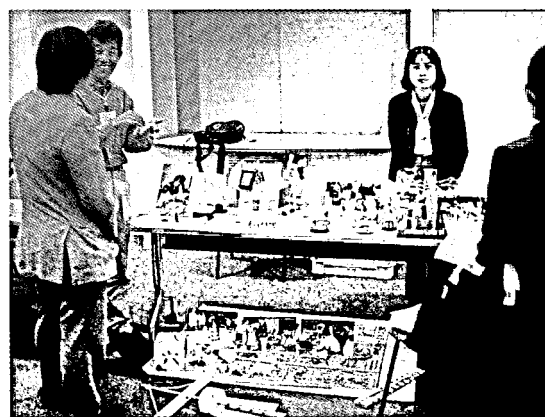
亀山市歴史博物館学芸員 小林秀樹氏

平成6年からの開館当初は、夏季企画展に際して「小中学生のための夏休み博物館」

と題して学習ノートを使った体験重視活動を行ってきた。平成11年にリニューアルし、展示構成の在り方を見直し「モノとの対話」をキーワードとして、調べることを体験展示と位置づけた。12年度からは「こどももおとなも！調べて体験博物館」と題し、調査ノートを作り、図録をみながらノートに書き込めるようにした。このような工夫によって、大人の入館者にも興味深く取り組んでもらえ、入館者の確保にも結びついている。

(2) 各館ブース見学・情報交換

各館が机1つのスペースで各館資料や体験活動の展示を行った。パネル展示だけでなく実演を行う館もあり、それらの資料を通じて相互交流を深めることができた。今年度初めての行事であったが、極めて有意義なものとなった。



第2日（10月25日（金））

博物館施設見学

1 産業技術記念館見学

産業技術記念館は、広大な敷地に「モノづくり」を重視し、歴史的資料を含めた展示がなされており、体験型展示や実演コーナーなどにより、体感重視の博物館であった。

2 ノリタケの森クラフトセンター見学

クラフトセンターは、洋食器会社ノリタケによって設立されたもので、1、2階では生地製造工程・画付け工程が参観できると共に体験コーナーと陶芸等の教室があり、3、4階に美術的価値の高い初期の作品を展示している、参加体験型博物館であった。

(機関紙委員会 事務局)

第53回岐阜県博物館協会会員研修会

「地域に根付く博物館活動のあり方」

期 日：平成14年9月10日(火)～11日(水)

場 所：中津川市鉱物博物館等

講 師：大林達生氏／菅原真弓氏

参加者：20名

中津川市鉱物博物館において会員研修会が以下の内容で開催されました。

研修1 「中津川市鉱物博物館における教育普及活動」

講師：中津川市鉱物博物館学芸員
大林達生氏

研修2 「中山道広重美術館の開設について」

講師：中山道広重美術館学芸員
菅原真弓氏

研修3 中津川市鉱物博物館見学

研修1では、大林氏が鉱物博物館で実際に取り組んでいる学校との連携、体験実習、体験教室等の活動をスライドを使って説明されました。



大林達生氏



菅原真弓氏

研修2では、菅原氏が美術館設立の目的、館ができるまでの苦労話や事業概要等の説明をされました。

研修3では、鉱物博物館の展示や館外施設を大林氏から説明を受けながら見学しました。

翌日は午前中に中津川市内の博物館を見学してまわりました。こども科学館では参加者全員が童心にかえって遊んでいたのが印象的でした。午後からは中山道広重美術館を見学し、菅原氏から展示説明や版画の展示方法などの話しを聞き、学ぶべき点が多く大変有意義な一日でした。

(機関紙委員 土岐市埋蔵文化財センター 中舘茂)

第94回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：「飛騨のやきもの—陶工の視点から—」

日 時：平成14年10月20日(日)

会 場：飛騨民俗村 旧田口家住宅

講 師：小糸焼窯元 長倉 大氏

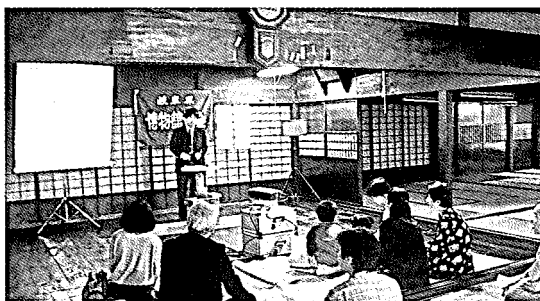
参加者：30名

当会第94回公開講座は、高山市飛騨民俗村の特別展「飛騨のやきもの—ひだびとの暮らしの中の陶磁器—」と関連して開催されました。講師には、飛騨民俗村とゆかりの深い小糸焼窯元の長倉大氏をお招きしました。実際に作陶している職人の視点から、飛騨地方における陶磁器生産の様相について講演していただきました。



まず、飛騨における製陶業の概要について触れ、近世になって開かれていく古窯の様相について解説されました。金森氏の治世による御用窯、幕府直轄地時代に有力町人の手によって生まれた民窯と高山の町人文化との関係、そして淡草窯、山田窯、小糸窯と近代・現代へと受け継がれる陶工の流れについて説明されました。

長倉氏はパソコン画面をスクリーンに投影するプロジェクターを使って説明されたのですが、写真や図版をふんだんに用いた解説は非常にわかりやすく、参加者はみな真剣に聞き入っていました。また氏は、持参したロク



ロとエンプロという窯道具を組み合わせる演出が施されていました。

講演後、展示会場である旧前田家住宅で飛騨民俗村学芸員による展示解説があり、展示資料をもとに長倉氏を囲んで熱心な議論が交わされました。

(機関紙委員 飛騨民俗村 岩田崇)

安養寺宝物殿

〒501-4241 郡上郡八幡町柳町217
城下町プラザ上 P有り
TEL 0575-65-2726

安養寺宝物殿は、平成12年5月蓮如上人五百回忌法要の記念行事として造られたものであります。



安養寺の開基は、近江源氏佐々木高綱の三男高重が出家して、親鸞聖人の弟子となり法名を西信と賜い、康元元年(1256)江州藤生郡に一字を建て安養寺と称しました。

中興の祖6代仲淳が、美濃安八大樽へ移り蓮如上人より安養寺の寺号を受けたといわれています。

その後、越前穴馬へ移り、更に郡上方面へと布教を広げたが、この頃仲淳が本願寺から授かったものの一つに、上部に正信偈の一部裏面に大谷本願寺釈実如が明応2年(1493)大樽庄安養寺釈仲淳に、この御影を授けるといふ実如直筆の裏書きのある親鸞聖人御影(郡上に最初に入った絵像といわれる「草分けの真影」)があります。

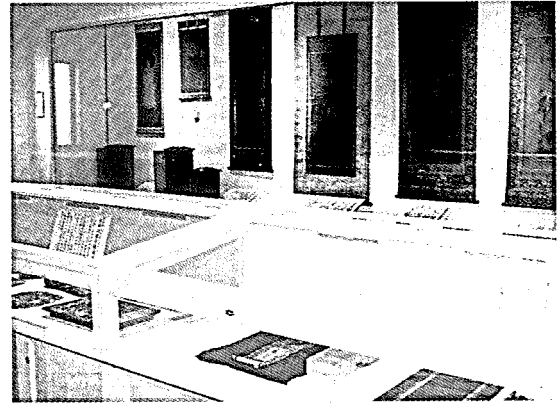
実如上人は本願寺八世蓮如上人の五男で、本願寺九世の法統を継いだ人であります。

七代了淳の時代天文5年(1536)大島村野里(白鳥町)へ、天正6年(1588)稲葉定通が郡上領主になったとき中坪村園野(八幡町)へ移り、寛文6年(1666)昇級院家、天保8年(1837)御坊分に昇格しました。

更に、本堂焼失を期に明治14年八幡城三の丸跡地(現在地)に移転し明治23年本堂を再建しましたが、大正年大火でも焼失し、昭和11年に再建され現在に至っております。

そして、度重なる移転や火災にもかかわらず、数多くの県重要文化財や町重要文化財が保有

されており、公開を希望する研究者の後押しもあって、宝物殿として一般公開することになったものであります。



展示物

県指定重要文化財

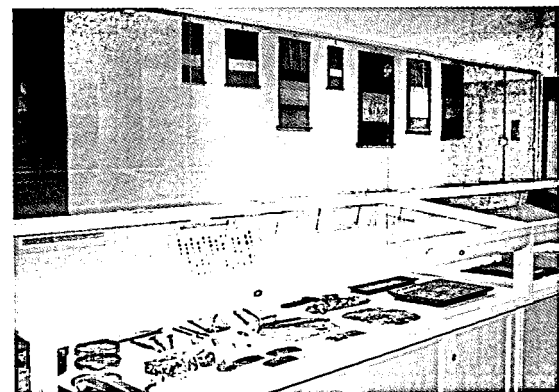
- 絹本着色阿弥陀如来像 裏書蓮如上人直筆
- 絹本着色親鸞聖人御影 草分けの御真影
- 絹本着色十五尊像
- 紙本墨書蓮如上人名号 四幅
- 石山合戦関係文書及び安養寺文書
- 織田信長地子免除安堵朱印状
- 朝倉義景・足利義昭・武田信玄
- 教如上人・証如上人等 書状三十四通
- 紙本墨書本願相応集
- 紙本墨書後世物語
- 香炉台

県重要有形民俗文化財

- 金森内室化粧道具

町指定重要文化財

- うでかけ 他



【交通】東海北陸自動車道

郡上八幡ICから車で約5分

【開館時間】10:00~16:00

【休館日】毎週木曜日と1月~2月

【入館料】大人300円 小中学生150円

(機関紙委員 日本土鈴館 遠山一男)